人間き書シリーズ　三〉

世話役たちの考え方

今回登場するのは××建設の現場世話役、Aさん、Bさんのお二人です。二人とも現場からもどったばかりのところです。

A　よオ、早かったやんか。コンクリすんだんか。

B　何のすむもんかい。半分明日の仕事に残してきたわ。塔屋が二重スラブやろ。それだけでも、たいがい時間がかかるのに、パラピットやろ、給水塔基礎やろ、それにひさしやろ、各階の駄目コンクリやろ、フェンス基礎やろ、めんどくさい所ばっかりや。塔屋はポンプで取ったけど、あとは全部、一輪車どりや。左官のベイウインチ借りて、一輪車一台づつまき上げや。はかどらん、はかどらん。

A　へー、そりゃ大変だったな。

B　はいな。それも人間が多にとりゃまンやけど、朝から二人もトンコしやがってから、仕事になるもんかいや。

A　やられたか。

B　やられたなんてもんやあらへん。朝から二人、昼から一人や。結局八人でする仕事を五人でやったわけやんか。人夫出しの手はあんなんばっかりや。

A　それはBさんが頭からガミガミどなりつけて追い通すから、連中、びびってしまいよったんやろ。

B　何言うてんねん。オレぐらい気のやさしい男がほかにおるかいうんや。何せ、現場へ着いて仕事もはじめんうちに、もう二人おらんのやから。何が気に入らんのか判らへんわ。

A　うん、それは言えるなア。せっかく現場へ出たものを、トンコせんかてええやろ思うけどな。飯場に帰りゃせんのやろ。

B　帰るもんか。みんな釜にもどりよるんやんか。今日

トンコした者の中には、十日契約の七日目やいう者もおったんやから、その気持が判らへん。え、そやないか。前借りもしてたかしらんけど、七日分の勘定を残してやな、あと三日の辛抱やないか。

A　何でやろな。

B　人夫出しの親方がえげつないからや。うちの店からあの人夫出しの親方へは一人に六千五百円払うとるのに、あの親方は人夫に三千五百円しか出しよらへん。一人一日三千円とはピンハネがきついわ。諸式でもどっつう高いらしいしな。それにあそこの弁当を見てみいや。おかずも悪いし、めしも幼稚園の子供の弁当ぐらいしか入っとらんやろ。うちの飯場もええもん食わせとらんがあそこはもっとひどい。

A　そやなア、トンコしたくなるのも無理ないわなア。

B　そんな同情してたら、こちとら仕事にならんやんか。

A　そやけど、あの親方にわしらが何か言うていけるか。余計な世話焼くな言われるくらいがオチや。いつだったか、七人頼んだのに四人しか寄こさんことがあった。

B　そんなんあの親方は常習犯や。自分とこの都合で、どないでもしよるわ。手が余ったときは五人頼んだとき、七人寄こしよるわ。二人も押し売りしよんのや。

A　ま、聞けや。そのとき三人も少なかったら仕事にもサマにもならんから、向うの飯場に廻って、あと二人でいいからって親方にたのんだんや。そしたらどないや。あの親方、わしには返事もせんと車の中をのぞいて〝よっしゃ、みんな降りて来い〟いうやんか。降りられてたまるか。四人でも仕事にならんのに、みんな降りられたらどうしようもないわ。あわてて発車オーライちゅうわけや。

B　ふん、ふん、あの親方ならやりそうなこっちゃ。

A　大体、人夫出しの飯場いうたら、自分とこの請負仕事ちゅうもんをもたんのやから、人夫何人貸していくらの商売やから、ヨタヨタでも、ヨボヨボでも数さえそろえばいいんやんか。

B　そや、ろくなのおらへん。あんなん借りてたら仕事になりゃアせん。トンコされたら困るけど、トンコせんかて仕事の出来るやつおらへん。六千五百円もはろてから、一日ぽけっとしとられたら赤字や。

A　六千五百円はろてから言うけどな、人夫本人にしてみれば、三千五百円しかもろとらんのやから、マジメに仕事する気にならんわけや。いや、三千五百円じゃいい手が集まらんで当り前や。

B　そやから人夫出しの手は借らんことや。

A　人夫出しから借らんかったら、それもまた困るぜ。いそがしい時はどうするんや。

B　西成へ行って現金でやとうて来たらええんや。六千五百円出さんかて、五千円位でいけるやろ。そしたら、うちの店かて千五百円もうかるし、働く者かて日当が高うなるから両方ええわけやんか。

A　それは一日か二日ならそれでええわい。しかし毎日やったらあかんわ。

B　何でや。

A　そやないか。釜へ寄ってから現場に寄って見いな。毎朝一時間は早起きせんならんでえ。

B　その位、仕方ないわ。辛抱せにゃ。

A　そらBさんは辛抱しようわい。せやけどだれもがBさんと同じ立場とちがうさかいな。

B　ほたら、交替で行ったらええ。

A　現場が二ケ所以上やったらどないや。神戸と和歌山やったら、まるきり方角ちがいやから、別々の車で釜へ行かんならん。世話役と運転手は、それも仕事のうちや思うてガマンするかもしれんけど、池の者はたまらんで。それとも何か、釜へ現金人夫むかえに行くだけで、早出の時間外手当つけてくれるんか。

B　つくかいや、そんなもん。ほたら西成へ現金人夫買いに行く者を専門で一人きめといたらどないや。

A　そんなもん、だれがするかいや。今でも毎朝七時に飯場を出よんねんで。それに間にあうように釜に行って、思うたら六時前から出て行かんならん。早出のときなんか五時に起きんならん。

B　それが仕事やったら仕方ないやんか。

A　まア、そうにしとこうか。しかし、その人間、昼間は何しとくんや。あそんでるんか。

B　そうはいかん。ウチみたいな人手のないところで、そんなこと出来ん。やっぱり、現場へ出てもらわんと。オヤジが承知せえへんにきまってる。

A　ホレ見てみい。そんなきつい仕事だれが引受けてくれる。ウチの運転手の口にだれかいるか。朝は人より早よう起きんならんし、時間外手当はつかんし。

B　うーん。そんならどないせえ言うんや。

A　それに現金やからええ手が集まるとはきまらんからな。これは運のもんや。宝くじみたいなもんや。その日その日の現金ばらいやったら、チンタラでも、ブラブラでも一日は一日や、お日さん西、西や。仕事に責任感ないわな。明日のこと考えんでええんやから、なんぼサボッて怒られても、その日の勘定さえもらえばハイさよならやんか。ま、全部が全部そんなんばかりやないやろけどな、そんなんも多い言うこっちゃ。

B　それやったら、同じ現金でもやな。マジメでよう仕事する者をえらんで、直行で来てもらうようにしたらどないや。

A　ええ考えやけどなア。そのマジメでよう仕事する者を、どうやってえらぶんや。それに直行いうても、現場が釜から近けりゃええが、遠かったら来る者おらんで。

B　そやい言うたら、どうしようもないやんけ。何ぞええ方法ないんかいな。やっぱり人夫出しから借りるしかないんかのう。

A　まアな。電話一本でそこそこの人数の手配が出来るんやから一番便利やな。

B　しかしなア。せっかく現場まで行ってからトンコされてみい。腹立つで。トンコする位なら朝から休んだらええんや。そう思わへんか。

A　腹立つわな。その日の仕事がパアになることもあるよってなア。いつだったか、箕面の団地のときは頭に来たわ。あんときはダメ仕事でな。人夫出しから一人連れて行ったんやが、朝からトンコされてな。二人でないと出来ん仕事やから、一人になったら休さなしゃアないわ。それもただトンコしただけならまだええわい。ハコバン（小屋）にぬいでおいた上着のポケットから、千円ほどかっぱらって行きよったやんか。ふんだりけったりみたいなもんや。頭に来たなんてもんやないで。もう腹が立って、腹が立って、あんときゃアそやろ、腹立つやろ。そやからあいつらに同情することないんや。

A　そこまで言ってもうたらしまいやけど、金まで盗られて笑ってはいられんしな。

B　結局、ウチの直営の手をもっとふやしたらええねんな。ほたら、人夫出しから借らんとすむからな。

A　まア、それが結論かな。

（編集部から）

このシリーズの筆者については、いろんな関係から名前を出さないことにしてきましたし、これからもその方針ですが、こんど筆者が病気で入院したことをお伝えします。

二月一杯ぐらいで退院できるかな、という見込で、そう心配はいりませんが、はさみこみのハガキで、読者のみなさんの感想や意見をきかせて下さるようおねがいします。

病床にいる筆者にそれを見せてやったら喜ぶし、元気づけられるにちがいありません。

よろしくおねがいします。

◎　◎　◎

こんどの聞き書に出てくる「三千五百円」という超ケタオチの人夫出し飯場、これはホントはどこの何という飯場かわかっているのです。しかしあえて名前を出さないようにしました。名前を出すと筆者にメイワクなことが起るかも知れないからです。

でもヒントだけ書いておきます。

飯場は大阪より西の方にあります。尼崎とか神戸、明石とか姫路あたりが大阪より西の方になってるのは御存知でしょう。

手配の車は毎日釜へきています。センターの近くではなく、カスミ町の踏切に近いところに車はいつも停っています。

バンクのその後　朝日新聞より

"不況国にあらず/帰ってきた売血"の見出しで、朝日新聞夕刊がバンクの最近の様子を載せていた。

"長引く不況の中で、売血が次第にふえつつある。売り手は、大阪・あいりん地区や東京・山谷などの日雇い労働者たちだ。四百cc千四百円。しかもこの数年間据え置かれたまま。仕事にあぶれる不況のなかで、売血が常習化した人たちが多く、医院に倒れこむ人もいる深刻さだ。"というリード付きで、記事中には、労務者源さ、五十歳（十二月号から吉田利吉さんの歌が載せられていた。）

バンクのことが詳しく紹介されていたが、去年10月の上旬、三日程二千円ぐらいに値上げされていたことは書かれていなかった。係長だか課長だかが勝手に値上げをし、それを伝え聞いた人が、ドッと押しかけ、値上げは二日でチョン。三日目からは再び千四百円で保証され、口うるさいのには影で金を渡していたという。

前日はこういうことは書かないのかしらん。